広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代広島弁
Author(s)	ガルシア, フランシスコ
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 20期 : 34 - 41
Issue Date	2006-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038836
Right	
Relation	

現代広島弁

フランシスコ・ガルシア

1. はじめに

日本に来る留学生は、教室で勉強する日本語をしっかりと身に付ける必要があり、周りの日本人が実際に毎日使っている日本語、あるいは方言のことばも分かることが必要だと思う。だから、これから広島大学に来る留学生に広島の言葉を教えてあげたら、ものすごく役に立つに違いない。ここで、方言の習得で知った、広島弁の特徴や代表的な表現を紹介したいと思う。

2. 広島弁とは？

広島弁と言うと、何が一番に頭に浮かんでくるだろう？「〇〇じゃけえ」と答える人が多いのではないかなと思う。この中には、広島弁の特徴が２つも入っている。

（１）「ーけん」「ーけー」
共通語では「ーので」「ーから」と言うところである。

例文１.「今日は、クラブに出んけん」（今日は、クラブに出ないから）
例文２.「野球の券が２枚あるけー、一緒にカープ見に行こうやあ」（野球の入場券が２枚あるから、一緒に広島カープの試合を見に行こうよ）

「けん」と「けー」はどう違うのだろうか。「けん」と「けー」の使いわけを、いろいろ尋ねてみると、「けー」は文の途中によく使い、「けん」は言い切りの形でよく使うということがわかった。

（２）「ーじゃ」
共通語の「ーだ」にあたる。

例文１.「じゃけーねー、昨日言うたでしょう」（だからねえ、昨日言ったでしょう）
例文２.「夏休みにデイズニーランドに行ったんじゃ。これ、おみやげ」（夏休みにデイズニーランドに行ったんだ。これ、おみやげ）

したがって、共通語の「ーだろう」が「ーじゃろう」となる。

3. “共通弁”

次に上げる特徴は広島に限っていないが、広島でよく使われているので、これらも広島の方言と言わざるを得ない。これは広島弁じゃない、これは〇〇弁だと言う人もいるが、ある地点を境にして、ここから東はすべて●●弁、ここから西すべては◎◎弁というふうに、きれいに分けることはできない。

（1）「ーとる」->「ーている」

例.「雨が降っとる。」（雨が降っている）

東京方言では、「（雨が）降っ＋て＋いる」が元になった「降っている」、あるいはそれが縮まって発音される「降ってる」という言い方しかなく、それで動作の進行も結果も表現する。

［進行］　雨が降ってるから傘を持って行きなさい。（今、雨が降っている。）
［結果］　あっ、雨が降ってる！（朝起きて地面がぬれていることに気づいたときなど。現在は降っていない。）

西日本の多くの地域では、このふたつの意味を、「降り＋おる」と「降って＋おる」のふたつの言い方で使い分けることができる。前者が進行の意味を表し、後者が結果の意味を表す。「て」をはさむかはさまないかで微妙な意味の違いを表すことができる。
＊方言学的には証明されているが、実際には、なかなか使い分けていないと思う。（場面による）
中国地方では、このふたつの表現が、実際の発音ではさまざまに縮まって発音されている。広島で、「降り＋おる」は「降りよる」に発音され、「降って＋おる」は「降っとる」のように発音されている。

（2）「ほんま」->「本当」

例.「Ａ：うそぉー？　Ｂ：ほんま　ほんま」（Ａ：うっそぉー？　Ｂ：本当　本当）

（３）「はよー」->「早く」

例.「早う行こうや」（早く行こうよ）

　似た表現で、「よく」が「よー」になる。

（４）「ええ」->「良い」

例.「ええのー」（いいな）
＊「のー」というのは、広島の方言の代表みたいなものだが、「のー」という音はもう使わないという人も多いようだ。

（５）「ーん」->「ーない」

例.「知らん／分からん／行かん」（知らない／分からない／行かない）

4. 疑問

（１）「ーん？」
　共通語では「ーの？」と言うところである。年上の人が年下の人に質問するときや、友達同士で使う。

例文１.「どしたん？汗びっしょりになって」（どうしたの？汗びっしょりになって）

（２）「ほーなん？」
　共通語では「そうなの？」と言うところである。

例.「A：(あ)ほーなん？　B：ほーよ、あの人アホじゃー！」（A：(あ)そうなの？　B：そうだよ、あの人バカだよ！）
＊ Aのせりふを初めて聞くと、「アホなの？」にしか聞こえない人が多いので、この微妙なところを勘違いしないように気をつけよう。

（３）「なにしょーるん？」
　共通語でいうと、「何してるの？」になるが、このよく聞く表現にはアクセントがポ

イントです。「なにしょーるん」も、共通語風の発音で、「なにしょーるん」となると、優しさに欠けた、問いつめるような言い方になる。柔らかく言いかけるには、「しょ」の部分を高くした、「なにしょーるん」でなければならない。アクセントをどこに置くかということだけで、ずいぶん表現に差のあるものである。

さて、ここは広島弁のアクセントやイントネーションについて話したいと思う。広島弁の単語のアクセントは、共通語と比べて、音の高い所が一音節ずつ後ろに下がる。例えば、共通語で、緑（みどり）が広島弁では（みどり）、鮑（あわび）が（あわび）、二十歳（はたち）が（はたち）となる。広島弁の「なにしょーるん」のゆるやかな後上がり調のイントネーションは、関西弁の高い音の連続調と山口の後下がり調とにはさまれながら、しっかりと広島弁らしさを保ち続けている。

5. 広島弁でがんす

「がんす」は、「ございます」->「ごわんす」->「がんす」と変化したと言われている。丁寧な、上品な言葉だと思われているが、今では使う人が少なくなってしまった。今まで二回ぐらい、「〇〇でがんす」と書いてあった店の看板を見たことがあるが、冗談として意外は、実際に使う人に一人も会ったことがない。

（1）「ー(し)んさい」

共通語の「ー(し)なさい」という意味の言い方である。

例文１.「ご飯ができたけえ、早う食べんさい」（ご飯ができたから、早く食べなさい）
例文２.「今度の土曜日に、うちの家に遊びに来んさい」（今度の土曜日に、私の家に来なさい）

前述の「がんす」が、ほとんど聞かれなくなったのに比べて、「しんさい」は、よく使われている。「がんす」というとちょっと重い感じがするが、「しんさい」は軽い敬語の感じがする。それが、よく使われている理由だろうか。

若い女の子は、「しんちゃい」とも言う。少し舌足らずな言い方ではあるが、優しくて柔らかく情感にあふれた言葉である。母親が子供に向かって、よく使っている。「はやく食べんちゃい」とか「はやく着んちゃい」。す行がうまく発音できない子供の話し方を真似した「食べんしゃい」も聞いたことがある。この「ちゃい」によく似た言い回しの言葉に、「ちゃった」がある。

（2）「きちゃった」

共通語では「いらっしゃった」という意味の丁寧な言い方である。

例.「あ！先生が来ちゃったよ。席に着こうや」（あ！先生がいらっしゃったよ。席に着こうよ）

ところが、広島弁に慣れていないと、この「ちゃった」を、「ーしてしまった」ととってしまう。軽い尊敬の気持ちが加わった表現なのに、標準語を勉強して来た留学生と他所から来た日本人には、なかなかうまくこの気持ちが伝わらないようだ。

この「ちゃった」を使った表現を、「てじゃ尊敬表現法」と呼ばれている。これは、近世に文化の中心地であった京都や大阪で栄えた、上方語法として広く伝われていたようだ。伝統のある表現とも言えるだろう。もともとは、「ーて・で・あった」から変化してきたものと考えられている。「ーて・で・あった」->「てじゃった」->「ちゃった」と変化してきたのである。てじゃ敬語は、西日本の方言で、広島・島根・山口で盛んに使われている。

6. 単語

これから、友達や広島の人々の口から聞いた言葉を紹介する。よく耳にするので、あなたも周りの人の会話ですぐ気がつくと思う。

（1）「たう」->「たわん」

共通語では「届く」->「届かない」にあたる。

例１.「あんた、高いところたわんよー」（君、高いところ届かないよ）
例２.「あの上の棚に手がたうんねー？」（君、あの上の棚に手が届くの？）

（2）「たいぎい」

共通語では「めんどうだ、めんどうくさい」と言うところ。「大儀」から来たと思われている。

例１.「今日はいまから、体育の授業が２時間もあるんじゃ。ああ、たいぎい」
（今日はいまから、体育の授業が２時間もあるんじゃ。ああ、めんどくさい）
例２.「計算ドリルの宿題がやっと終わった。たいぎかった」
（計算ドリルの宿題がやっと終わった。めんどうで疲れた）

「めんどうだ／な」のことが「めんどい」、苦しい、辛いのことを「しんどい」とも言う。

（3）「ぶち」

共通語では「すごく、ひどく」と言うところである。

例１.「この問題は、ぶちむずかしかったな」

（この問題は、ものすごくむずかしかったね）

例２.「ぶち怒るんじゃけー」（ひどく怒るから）

この「ぶち」は、「ぶちあげる」「ぶちおとす」「ぶちまわす」などの「ぶち」と同じ語源のものだろうか。漢字を当てると、「打つ」という字がそれに当たる。「ぶち」から、さらに多くの形にわかれている。「ぶち」、「ばり」、「ぶり」。大人にはなかなか使いこなせない。若者の広島弁の一つと見られている。

（4）「ねとねとする」

共通語では「ねばねばする」と言うところである。

例.「納豆、食べたら口がねとねとするんよ」（納豆、食べたら口がねばねばするの）

いろんな人に直接に尋ねてみたら、「汗の方がねとねとする。納豆はねとねとはあまりしない。」という意見を聞いた。これは、主観的な違いかもしれないが、「と」と「ば」を較べると、後者の方が音が濁っている。これは、濁音と言うことである。だから、「粘って、延びって切れない」感覚を表現するには「ねとねと」が使いにくいだろう。または、「ねちゃねちゃ」と「ねちねち」という言い方も出てきたけど、こちらの方が「しっかりくっついたもの」を示す表現だそうだ。

7. まとめ

土地の言葉を覚えようとすると、意味や使い方を一度や二度教えてもらってもなかなか自分のものにはならないが、その土地で生活し、自分で使いこなしていくことで、だんだんと身についていく。

広島弁と言っても、地域によって特徴があるので、西条でよく使われている言葉が県

内の地域で全然違う言葉になることも珍しくない。一語一語が、現実に生きて使われており、まったく同様の分布のパターンを示してはいない。私たち人間が、一人ひとり表情が違うように、方言（生きて使われている言葉）にも、それぞれ表情がある。

このように、さまざまの方言を、それぞれの方言の示す型ごとに分類する。そしてそれがどういう理由で、そのような型を示すようになったかを考えていく。そうすると、それが方言の生い立ちや発展を考える糸口となる。方言の生い立ちや発展を考えていくことはまた、結局、その土地の歴史や暮らしを考えていくことにつながっている。

方言の鳥瞰図

図１．言語学の立場から見た日本語の区分け。日本の方言は、大きく本土方言と琉球方言に分かれている。日本本土を見てみると、地図のように、大きく西と東にわかれている。西日本をもっと詳しく分けると、関西方言と中四国方言が表れてくる。

図２．中四国地方は、まず中国方言と四国方言に分けられる。そして、鳥取県と島根県の一部にある「雲伯（うんぱく）方言」と、残りの中国地方に分布する「中国（ちゅうごく）方言」、高知県の「土佐（とさ）方言」と残りの「四国（しこく）方言」に分かれる。そしてまた、研究の対象とした広島弁は、大きく「安芸（あき）ことば」と「備後（びんご）ことば」に分けられる。

参考文献

町　博光（1999）『ひろしまべん１００話』渓水社

町　博光（1991）『今じゃけえ広島弁』NHK 広島放送局

井上史雄・吉岡泰夫（2004）『中国・四国の方言/調べてみよう暮らしのことば』ゆまに書房

「広島弁口座」http://www2e.biglobe.ne.jp/~hayato/hirosima.htm